第 74 回　宇宙科学・探査小委員会　議事要旨

１．日時：令和８年 11 月 16 日（月）　14：00 ～ 16：00

２．場所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局　大会議室 及び オンライン

３．出席者

（１）委員

常田座長、篠原委員、関委員、永田委員、野村委員、山崎委員

（２）事務局（宇宙開発戦略推進事務局）

龍崎局長、鎌田審議官、山田参事官、樋口参事官

（３）関係省庁等

文部科学省宇宙開発利用課	梅原課長
文部科学省研究開発局戦略官（宇宙利用・国際宇宙探査担当）	遠藤戦略官
国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構	宇宙科学研究所（ISAS） 藤本所長
国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構	川崎理事補佐
国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構	国際宇宙探査センター 山中センター長
国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構	宇宙科学研究所（ISAS） 火星衛星探査機プロジェクトチーム 川勝プロジェクトマネージャ

４．議事要旨

議題１　宇宙科学・探査ミッションの進捗報告

宇宙科学・探査ミッションの進捗状況について、資料１を用いて、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）から報告があった。

委員からは、以下のような意見があった。

（〇：意見等）

〇 戦略的海外共同計画への参画について、日本がより存在感のある形で参画していくことに期待する
〇 SOLAR-C の国際協力枠組みの変更について、ミッションの見通しを丁寧に示す必要がある
〇 次世代小天体サンプルリターン（NGSR）について、JAXA のみならず企業を含めたリスク管理が重要であり、宇宙戦略基金の成果も取り込むべき
〇 有人与圧ローバについて、サイエンスコミュニティとの連携を一層強化し、海外利用に偏らない日本の科学的成果につながる運用を目指すべき
〇 内之浦の深宇宙探査用地上局について、JAXA 内部に閉じず、通信・アンテナ・マイクロ波分野の外部専門家との連携を強化すべき
〇 観測ロケットについて、我が国の貴重な研究基盤であり、引き続き打上げ機会の確保や活用促進を図るべき

議題２　宇宙基本計画工程表改訂の審議

宇宙基本計画工程表の改訂について、資料２を用いて、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）から提案があった。

委員からは、以下のような意見があった。

（〇：意見等）

〇工程表における「ポストISS（国際宇宙ステーション）の地球低軌道活動」について、今後の商業宇宙ステーション（CLD）選定等も踏まえ、記載を明確化する必要がある

なお、今回JAXAから提案のあった工程表の改定案については、宇宙科学・探査小委員会として了承した。

議題３　次期宇宙基本計画の論点の提示②

次期宇宙基本計画の論点の提示として、資料３を用いて、内閣府宇宙開発戦略推進事務局から説明があった。

委員からは、以下のような意見があった。

（〇：意見等）

〇人類共通の根源的な問いに挑戦し、世界的に重要な科学的知見を創出・共有するという科学目標をより明確に位置付けるべき
〇フロントローディングの重要性については宇宙工学分野に限らず、科学・探査全体に共通する考え方として記載すべき
〇宇宙工学分野では産学官連携が特に重要であり、その旨を明確に記載するとともに、大学・高専を含む人材育成の視点を盛り込むべき
〇月面インフラについては、電源だけでなく通信・蓄電等を含むより広い概念であることをわかりやすく記載すべき
〇国際宇宙探査への貢献については、物資補給機に限定せず、多様な技術による継続的な貢献も記載すべき
〇企業が継続的に技術者を確保できるよう、技術開発成果が将来のミッションや調達につながる好循環を構築する視点が重要
〇宇宙戦略基金の成果を探査・有人宇宙活動へ効果的に展開することが重要
〇月面インフラでは、アンカーテナンシーの考え方も含めて検討すべき
〇月面ルール形成においては、日本の科学・探査実績やベストプラクティスを創出・活用しつつ、国際的な議論へ主体的に貢献していくべき
〇ISSで培った実績を踏まえ、ポストISS時代においてもアジア地域におけるリーダーシップを発揮するべき
〇有人宇宙活動に関する要素技術について、将来のみならず足元の取組も含めて継続的に発展させる視点が必要

議題４　MMX打上げ結果の報告について

火星衛星探査計画（MMX）の打上げ結果について、資料４を用いて、国立研究開発

法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）から報告があった。

委員からは、以下のような意見があった。
（〇：意見等）

〇 MMX の打上げに向け尽力してきた関係者のこれまでの取組に敬意を表し、必要な予算が確保されミッションが実現されたことを評価する
〇 今後の着実なミッション遂行と成功を期待し、安全な航海を祈念する

以上